

明けましておめでとうございます



撮影：北九州市のKさん

みんつど

第二十五号

編集 天地 成行

提供

村岡鍼灸治療院

阿東つばめ農園 俳句雑誌「山彦」レストハウスたんぽぽ
こころてれび ひだまりの会 株式会社くるとん

みなさん、明けましておめでとうございます。お久しぶりの、みんつどのお時間がやってきました。今年もよろしくお願ひします。

昨年十月に、前号を出してから目まぐるしい日々が年末にかけて襲いました。まずは四面にもあります冊子『みんつど』の制作と配布活動。それから地元コミュニティFMに自由律俳句の師匠の河村正浩先生と出演。地元当事者会に初顔出ししたりさまざまな活動に取り組んできました。

中でも二つのことが大きいかもしれません。

一つは、「みんつどブログ」と「みんつど編集部」ユーザーの開設のマルチメディア展開。画期的であります。紙面では伝えきれない音や、紙面に入りきれない記事など機能満載であります。「みんつどブログ」は<https://mintsudo.seesaa.net/>。

それから、これは作業の都合上で完遂できているかわかりませんが、地元の少人数の前で体験談を語るお時間をいただきました。これはすごいです。今現在、何を話そうかご担当者さまと打ち合わせしながら考えていて、母も巻き込んでんやわんやであります。

名刺も三年経って、二百枚くらいさばけて、新調しました。肩書は「ほっこりアイデアチャンネルマイナー主任、みんつど編集部 天地成行」です。前回「ほっこりアイデアチャンネルマイナー見習い」でした。新調するごとにランクアップしていきます。それだけ人に会えているという証なのであります。今年もなんとなく、少し前を向いて生きていければいいかなという次第です。よろしくお願ひします。

今号も盛りだくさん。それではスタートです。

今年の編集方針

① 無理な発行をやめます

これまでに発行ペースは、ならして月に一回のような感じになっていますが、かなり秋までにかけて無理をして作ってきました。ですので、自分の体調を第一に考えて発行し、今後のリカバリーの過ごし方をしていきたいと考えます。息を長く、目指せ百号と言う感じで、天地成行のライフワークとして楽しみながら活動していきたいのであります。年に四回くらいをめどに、無理なく『みんつど』を発行していきます。ご理解をよろしくお願いいたします。

② 内容をさらに充実します

③ともかわる話ですが、内容をさらに充実させる、というかも③の話も織り込んでします。読者のみなさんのニーズは私に届く声の中で分かれており、ゲストの人が多くと楽しいと思う人と、天地のエッセイや読み物を中心に楽しんでいくという感じになっています。①で十分な期間をとって、内容を深めるなかで、なるべく多くの人を登場させるように制作していききたいと考えます。取材であったり、寄稿であったり、これまで以上に進めていきます。

③ みなさんの声を多く入れます

①②の通り、みなさんのための心が疲れた人へ向けた「みんなが集える」ミニコミ誌『みんつど』をこれからも作成していきます。そのために制作に携わりたい、積極的に支援したい、という方もどしどしご連絡ください。メールアドレス Fenchid2020@outlook.jp まで。よろしくお願いたします。

とき先生と友の言葉でしのぶ

六十九人の大丈夫ノートより



JR新山口駅にて(天地撮影)

も込めてご紹介したいと思えます。

◇ 「自らを良と信じ、利と認むる点を遂行し取捨するにあたってはいささか奪うべからざる精神を有す」

までにさらに二人の方が亡くなられました。お名前を伏せて、供養の意味

拙著『わたしは山頭火!?!』内に出てくる「六十九人の大丈夫ノート」。昨年

栃木県足尾銅山の公害問題に闘った故・田中正



「恐竜、山中に？」(周南市の松田さん)

造の言葉です。

◇ 最後は村人すべてから奇人扱いされながらも、自らの意志を貫きました。

そして、最後の最後に村人は彼の生き方を尊敬

して支持しました。

人間、最後はひとりだと思えます。

しかし、その深い絶望の中にこそ、強い信念が芽生えると思えます。

◇ 最後は私もそばにいることでしょう。

(2005年5月4日 巴瀨にて)

(2012年6月1日)

◇ 驥足(きそく)を展(の)ばせ!!

お二人に合掌!

ちなみに驥足を展ばすとは、「故事成語」の出典のようです。優秀な才能を存分に發揮することのたとえ。また、自由気ままに行動することのたとえ、だそうです。

テッドとそばの格闘

会社員時代に千葉県に住んでいた。最寄りJR西船橋駅構内の立ち食いそばコーナーが毎日の朝食の場所だった。1997年から2000年代は

じめまでだったため、駅を改修したと聞いたから現在はないだろうが：

◇ 毎日好んで食べたのがコロッケそばに生卵をトッピングである。食べ方だが、いろいろ試してみた。生卵の黄身を出汁とかき混ぜる、先に黄身だけ「ちゆる」と食べる。白身のみかき混ぜるといった具合。毎日決まったお気に入りのルーティンは

「黄身先ちゆる」であった。濃い関東風の出汁に慣れるのに少

し時間はかかったがおいしかった。まあ、毎日二日酔いだったためだろうか。体に沁みた。

そこにたまに外国人が同じ時間に来るようになった。彼をテッドと仮に呼ぼう。

テッドは、長身で左利きでたどたどしい箸裁きで、「ソバヌードル」を音を立てずすすっていたことが逆に目立った。時間はかかりながらも食べ続け、汁まで飲み干す。いつも彼を見ながら食べた。箸を不器用に使う彼が気に入り、「よし、いぞテッド! もう少しで完食だ。いけ。よし」。

なぜか毎日彼が気になった。彼は今日も来て「ソバヌードル」を食べに行くのか。今日は通りすぎた。今日は来た。という感じでテッドの毎朝を追ったのであった。

「シリアスの中に救い」元会社上司

『わたしは山頭火!?!』感想

君が会社で一番辛い時期に伴走した関係者の一人として、あの時、こんな思いをしていたのか、も

う少し助ける手立てがあったのでは、などさまざま思いが押し寄せて来ました。

藤井秀樹さんコーナー①

私は、大学を卒業して建設会社で現場監督の仕事をしていました。入社四年目に体調を崩しました。症状として、幻聴や被害妄想などがあり、後でそれが統合失調症と知ることになりました。その後も我慢して仕事をし、相談できる人もおらず自分を完全に見失いました。そのうちに症状が悪化していきました。被害妄想が膨らんでいき、目の前の事が現実なのかどうか全くわからなくなりました。結局、私が抱える問題について誰にも相談できずに退職することになります。

退職後は、実家に帰り親の仕事を手伝いました。ここでもまだ医療機関や相談機関につながっていないことから、症状が悪化し仕事が手につかなくなり、ついに精神病院に医療保護入院(精神病院の入院にはほかに、任意入院があり、保護入院は退院のハードルが高い)しました。この頃は、自分のこれまで歩んできた人生の中で最も辛い時期となります。はじめのうちは、病棟で孤立しました。しかし、次第に患者さんやスタッフさんたちと話ができるようになり、自分というフィルターを通して、人の苦しみを理解することができるようになってきました。(続く)

元会社上司

ここまで自分を見つめ、

気を削ぐわずありのままに表現できたことがまず凄い。しかも柔らかい筆致で読みやすい。客観的な目とユーモアもある。だから重い体験記だけど、重苦しくはない。シリアスだけど、救いがある。

とりわけ、自由律俳句と出会い、自己表現の場を獲得し、心が解放されていくところは、同じ病気に苦しむ人たちの救いになると思う。

まだ回復途上で過酷な渦中にあると思うが、いい具合に力が抜け、日々新たに「自己ベスト」を更新中の君を見れたことが、なにより嬉しいよ。

末尾に俺も好きな山頭火の歌を掲げる。

「山あれば山を観る 雨の日は雨を聴く 春夏秋冬 あしたもよろしうべもよろし」

「うれしいことも かなしいことも草しげる」

どうかぼちぼち、ゆるゆる今のペース、歩幅で歩いていってください。(元会社上司)

冊子『みんつど』が完成

2年分の軌跡

集大成ここに



あの人の文章、あの人の写真、あの人のイラストは何号にありますか？ みなさん、みんつどの冊子がついにいかにできましたよ。安溪遊地・山口県立大学名誉教授の多大なるご協力にて、スムーズに？できました。みなさんに読んでほしい一冊。二年の汗と涙と酒と男と女？の作品。欲しい方は、メールください。着払いにて無料でお届けします。問い合わせアドレスは、Tenchu2020@outlook.jp)まで。先着三百名様限定です。無料でカンパは募集しております。よろしくお願います。(天地)

新しいことが多すぎて、詰め込み感満載の二十五号だったかもしれません。でも、あえて二面はそれでも空白をめいっぱい使いコントラストを設けました。これがニュー天地の形かもしれない。

後記

新しく

とにかく発作的に発行しなきゃという思いで突き進んだ二年。いよいよ交差点に差し掛かってきております。その交差点の左に行くのか右なのか、結果その方向がよいのか間違いなのかは行ってみないと分かりません。統合失調症に終わりはありません。終生付き合っていくかねばなりません。私は書くことや編集することを主にリカバリー(症状をもつていてもやりがいを持って生きていく)活動をしています。積極的に社会に交われるか、ここからがぶれず勝負の年になりそうな予感がいたします。では次号。